

分町問題で町が揺れる

分町へ動く

浜浦と下大谷内

三町村の合併が完成する前から、すでに木崎村議会において分町の論議があり、合併議決が行われたときも議会でもそのことが論議されています。浜浦地区の歴史に詳しい斎藤俊彦さん（白勢町・六十歳）は、「議会の記録には残っていないと思いますが、口頭で分町・新潟市合併の約束はあったはずで、南浜地区とのつながりが深いので、岡方村・長浦村と一緒になることなど考えられなかったんですね。浜浦は全

当時の浜浦地区分町問題の役員

細野桂司さん
(白勢町・八十一歳)



同盟休校は非常手段

町村合併の時に分町の約束があり、新潟市からも受入れに問題はなかったんです。そのため、町議会に提出した「分町の請願書」は、簡単に採択されるところだと思っていました。しかし、それが否決されたため、しかたなく同盟休校という非常手段に出たんです。ここは、人的交流や、田畑の耕作地から、南浜地区とは、離れられないんですね。

員分町賛成でまとまっていた」と、話しています。

三町村の合併が行われた後の昭和



浜浦地区の寺小屋になった広泰寺



7・2 下大谷内分町賛成者が県総務部長に分町の取り扱いについて照会（7・4回答）

豊栄町・長浦村との合併成立

豊栄町議会議員選挙

8・4 新潟市長、豊栄町長と両議長が県庁で協議した結果、浜浦地区は分離

下大谷内地区は住民投票と決定

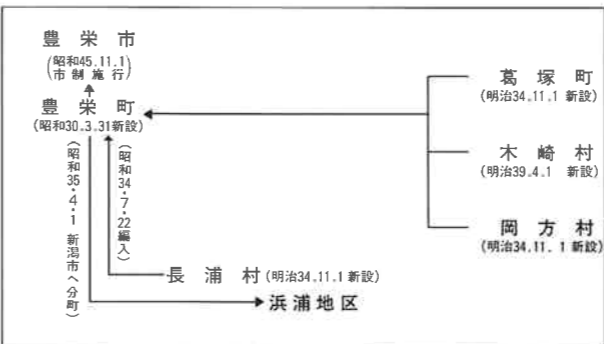
12・9 定例町議会で浜浦地区分町を可決

35年

2・25 下大谷内住民投票

三分の二に達せず分町否決

4・1 浜浦地区の分離新潟市合併



分町賛成・反対のつらい思い出



分町当時の
木崎村議会議員
竹内 甲さん
(下大谷内・85歳)

木崎村は、最初濁川村と合併し、次に松ヶ崎浜村と合併したい意向を持っていました。そのため、木崎村の議会が濁川村議会へ交渉を行ったのですが、濁川村は新潟市へ合併する考え方があったので、話し合いにはならなかったようです。

下大谷内の分町については、つらい思い出がたくさんあります。分町に賛成の家・反対の家が別々に水道の本管を布いて、他町村の人から「日本一の設備だ」と冷かされたこともありましたが、隣どうしでも、あいさつしなかったこともあります。今は、集落一致して何事にも取り組んでいます。

浜浦地区は同盟休校で対抗

浜浦地区住民は全員が分町に賛成していることもあって、豊栄町の対応に我慢ができません。今後の対応を検討していました。その結果、子供たちを南浜の学校へ転校させることを決め、新潟市へ住民登録の申請をしました。しかし、それが受け入れられず、昭和三十一年四月五日から同盟休校という強行手段に出て、退職教員を雇い、地区内の広泰寺で寺小屋式教育を始めます。これは、教育庁のあつせん調停に調印する六月三十日まで行われ、その後は公民館で補習授業を行うことになりました。

浜浦地区は新潟市の南浜地区と接し、一軒の屋敷のなかに新潟市と豊栄町の境界があることも珍しくなく、分家宅に住所を移し南浜の学校に転校していった子どももありました。しかし、分町の話し合いは進まず、町村合併調整委員に調停を委ねました

当時の寺小屋で学んだ

大野 武さん
(白勢町・四十六歳)



転校してからが大変

私が中学1年の時でした。漢字などは教わりましたが、ほとんど勉強らしいことはしませんでした。南浜の学校に転校してからは、そこへ打ち解けるのに苦労した思い出があります。

が、不調に終わっています。分町を実現しようとする浜浦地区や下大谷内の住民は県への陳情を続けるなど、決意をますます強くしていきます。

一方で話し合いも進められ、三町村の合併が成立した後の昭和三十四年八月四日、県庁において新潟市長・同議長、豊栄町長・同議長が集まり協議した結果、次のように措置することが決められました。

- ・浜浦地区は分町し、新潟市へ合併
- ・下大谷内は住民投票を行う

下大谷内は住民投票へ

浜浦地区は、問題として残っていた出作耕作地のことについて話し合いがまとまり、昭和三十五年四月一日、新潟市と合併します。しかし、下大谷内地区は賛成と反対に二分され、話し合いで解決することが見込めなくなり、昭和三十五年二月二十五日木崎支所において住民投票を行うことになりました。

豊栄市民は一体と なってまちづくり

投票日の前日まで激しい賛成・反対の運動が続けられた結果、賛成票が三分の二に満たないため分町しないことに決定しました。

投票数

賛成 三四一票

反対 二〇一票

無効 一三九票

無効 一票

これを不服とする分町賛成の住民は、町選管と県選管に異議申し立てを行いました。いずれも退けられます。賛成・反対と、親類や肉親が長期間に渡り交流を絶って争いを続けた分町問題は、これで終わりをつけます。しかし、地区住民には苦しい思い出として残ることになりました。

町村合併を行った地方自治体は、その後の社会情勢の急激な変化に対応するための行、財政力をつけたといわれています。これだけの事業が全国規模でできたのは、国の指導があったことと合わせて、交通や通信手段の発達によって生活する範囲が拡大してきたことが大きな要因にあげられます。

四町村が合併してできた豊栄市は、合併後数回にわたって見舞われた大水害や台風、力を合わせて対応してきました。旧町村による地域の特性は残しつつも、現在は全市民一体となってまちづくりを行っているといえるのではないのでしょうか。